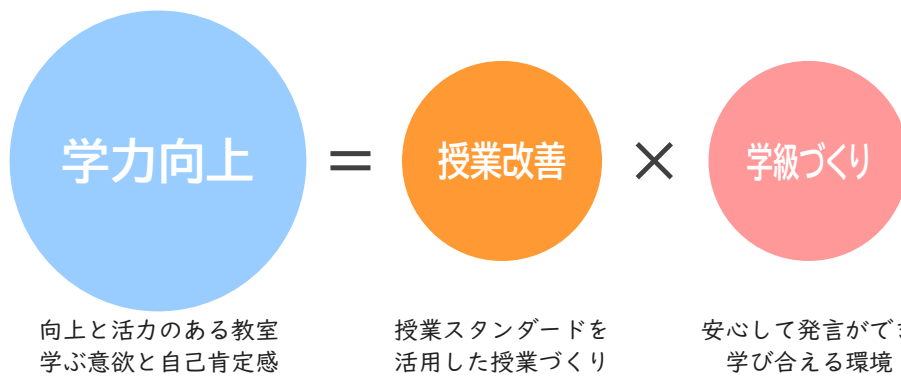


令和8年度版

—理解・共有/定着/深化のスパイラル—

川越市小・中学生学力向上プラン

夢や志をもち、自ら学び考え、
他者と学びあい成長できるこどもの育成



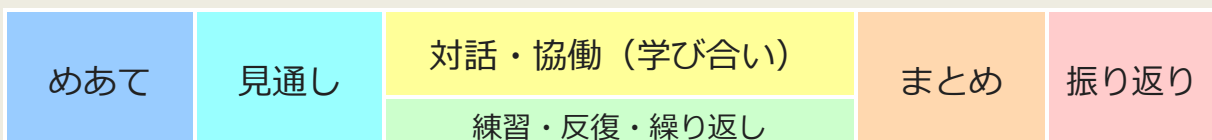
川越市小・中学生学力向上プランでは、「何を学ぶか」「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」という授業改善の視点に基づいた「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指しています。中でも「どのように学ぶか」は、学力向上のための本市の重点であり、「学びの本質」を具現した「川越授業スタンダード」を方策として示しています。学力向上は、「授業改善」と、児童生徒が多様な他者を理解・尊重し、安全・安心を実感できる「学級づくり」の両面から取り組むことが大切です。

【川越市の学力向上を支える4つの教育力】

| 学校の力 | 教師の力 | 家庭の力 | 地域の力 |
|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|--------------------------|
| 学校教育目標の実現に向けて、 もち味を生かし協働する | 計画・実践・評価・改善に努め、 授業の質の向上を目指す | 習慣や規律を身に付け、 成長や学びの基盤をつくる | 認識を共有し連携・協働して こどもを育てる |

「学びの本質」を具現した「川越授業スタンダード」

学びは、こどもの問題意識から始まり、対話・協働を通して、最後はこどもに帰り、自身で深めていくものです。この過程を体験することに、**学びの本質**があります。川越授業スタンダードは学びの本質を具現したものであり、川越市が目指す授業の基本形です。



川越授業スタンダードを活用した授業づくり

川越授業スタンダードは、川越市が目指す授業の基本形であり、学びの本質を具現したものです。「めあて」「見通し」「対話・協働」「まとめ」「振り返り」それぞれの活動がもつ意義（特に子どもにとっての意義）を理解して、活用することが大切です。

また、各教科等の特質に応じて「学び合い」や「練習等」を組み合わせる授業を計画していきます。

めあて

「めあて」は、本時の学習の確認です。
子どもにとって、何を学ぶのが意識される場面です。

- 端的に本時の「めあて」に入りましょう。
- 疑問や問題意識を引き出して、必要感をもたせましょう。
- 疑問や問題意識をめあてに変えて示しましょう。



見通し

「見通し」は、本時の学習の予測であり、学習に対する可能性や期待感を高めます。

子どもにとって、「何をどのように学ぶか」、「自分はどのように関わるか」などが意識される場面です。

- 「どのようにやりますか?」「できそうですか?」など、解決できるかを子どもに問いかけましょう。
- 「協働すればきっとよい結果が得られそうだ」「自分はそのことについて役に立てそうだ」などのように思えたとき、主体的な学習になります。

<見通しの種類>

- ・方法
- ・結果
- ・手順
- ・時間
- ・解決
- ・可能性 等

対話・協働(学び合い)

練習・反復・繰り返し

「対話・協働(学び合い)」は、能動的な活動を創り出すことです。

子どもにとって、自分で考え、友達と話し合い、お互いに高め合っていく場面です。

- 子どもたちの学びを可視化しましょう。
- 思考ツールを活用しましょう。
- 板書とICTの相乗効果(ベストミックス)を図りましょう。
- 学び合いをスムーズに進めるための支援者(ファシリテーター)としての役割を意識しましょう。
- 子どもが学習者用コンピュータを学び合いのツールとして活用する活動を考えましょう。
- めあてに向けて、子どもが自らの学び方を選択できるような活動を考えましょう。 ※R7動画参照



まとめ

「まとめ」は、学び合ったことを整理し、確認します。

子どもにとって、学んだことを納得し、理解する場面です。

- 「まとめ」と「めあて」を正対させましょう。
- 学び合ったことが板書されていることが重要です。
- 教師の指導・助言が必要です。
- 学び合ったことを、整理・確認して「まとめ」を行いましょう。



振り返り

「振り返り」は、子ども各自の学びの捉え直しです。

子どもにとって、自分自身の学びを、自覚・実感する場面です。

- 振り返りは、毎時間3分程度の時間を確保し、静寂な空気の中で行うようにしましょう。
- 自分にとって「どのような意味や価値があったか」などについて書きます。

<振り返りの内容例>

- ・理解の状況
- ・取組の姿勢・態度
- ・学びの過程
- ・理解の捉え直し
- ・満足感・充実感
- ・次の学びへの期待

■ 「対話・協働」と「練習・反復・繰り返し」を適切に組み合わせる

授業には、じっくりと話し合い、学びを深める「対話・協働」中心の授業と、練習問題などを組み込んだ「練習・反復・繰り返し」中心の授業と大きく2つのタイプがあります。

どちらにも良さがありますので、身に付けさせたい資質・能力やめあてに応じて、単元計画の中で、2つのタイプの授業を適切に組み合わせる計画していくことが大切です。

【授業の2つのタイプの特徴とイメージ図】

「対話・協働」中心の授業

| | | | | |
|---|---|-------|---|---|
| め | 見 | 対話・協働 | ま | 振 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ、対話・協働の中で解決する授業 ・学んでいることの意味や根拠をこどもが考える授業 ・身に付けた知識や技能を活用し、さらに深く理解する授業 | | | | |

「練習・反復・繰り返し」中心の授業

| | | | | | |
|---|---|----|------------|---|---|
| め | 見 | 対話 | 練習・反復・繰り返し | ま | 振 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・知識や技能の習得を目指す授業 ・教師が示した考え方ややり方に沿って学ぶ授業 ・練習問題などに取り組む授業 | | | | | |

■ 「単元全体を見通した」授業づくり

川越授業スタンダードは、1単位時間の授業だけではなく、単元全体にも適用します。単元や題材など、内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげましょう。



■ 授業を充実させるための「教師の役割」

教師には、児童生徒の「対話・協働による学び合い」がスムーズに進み、成果が上がるように支援する「ファシリテーター」としての役割があります。児童生徒の主体的な学びを支援する伴走者として、児童生徒一人一人の学びを最大限に引き出す教師を目指しましょう。



- 問いかけによって、考えや意見を引き出す
- 合意に向けて論点を整理する
- 具体的な提案をして、モチベーションを高める
- 多様な意見を引き出して、協働、企画、創造を促す

- 「それはどんな意味ですか」
- 「その意味をもう少し知りたいな」
- 「ここで一度整理します」
- 「考え方がいくつ出ましたか」
- 「こんな方法もありますよ」
- 「それならこうしたらどうかな」
- 「〇〇と〇〇（立場や視点）から考えられませんか」

■ 「家庭学習」に学びの本質を

川越授業スタンダードを活用した授業での学びは、家庭学習の工夫によって、さらに充実します。「授業」と「授業」のつながりや「授業」の発展を意識した家庭学習の取組は、「主体的な学びを創っていく一つの手立て」になります。授業と授業をつなぐ家庭学習を意識しましょう。

【家庭学習のポイント】

- 自分に挑戦（チャレンジ）させましょう
- 学校全体の取組にしましょう
- 家庭学習のねらいを明確にしましょう
- 授業とのつながりを大切にしましょう
- 励ましや称賛などのチャンスにしましょう
- ICTの活用を工夫しましょう

- ※学びに向かう力の育成
- ※家庭学習の手引きや校内掲示などの取組
- ※知識及び技能の定着、思考、判断力、表現力等の育成
- ※振り返り→家庭学習→めあて（予習・復習）
- ※学ぶ意欲や自己肯定感の向上
- ※学習者用コンピュータを活用して課題を配布等

■ 「こどもの学びの姿」から授業を考える

「学びの本質」を具現した「川越授業スタンダード」において、「どのように学ぶか」は学力向上のための本市の重点です。子どもたち一人一人がどのように学んでいるのかという「こどもの学び」の姿から授業を考えることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実につながり、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指しましょう。[※R7動画参照](#)

ポイント① 子どもたち一人一人が、本時の「めあて」を共有している

ポイント② 子どもたち一人一人が、めあてに迫るために、「どのように(誰と・何で)」学ぶのかを、自分で選び決めている(自己調整しながら学習を進めていく)

【誰と学ぶのか】

- ・自分で学ぶ ・友達と学ぶ ・先生と学ぶ など
- 授業の中で、自分は誰と学ぶべきかを、子ども自身が「考え、選び、決める」ことのできる活動の機会をつくるのが大切です。めあての共有に加え、日頃の学級づくりが重要な土台となります。(子ども同士、先生だけでなく地域の方々なども含まれます)

【何で学ぶのか】

- ・教科書で学ぶ ・インターネットや動画で学ぶ
- ・友達とのデータで学ぶ
- 自分は何で学ぶのか、教科書、インターネット、動画、ノートやプリント、本や新聞、共有データ等から、子ども自身が「考え、選び、決める」ことが大切です。

【一人一人の学びの支援】

- ・単元計画を共有する
- ・孤立させない
- 子どもが単元計画を確認できる工夫や、孤立させないための把握や支援が教師の大切な役目です。



川越授業スタンダード × 1人1台端末(クラウド環境下)
「個別最適な学び」と「協働的な学び」
主体的・対話的で深い学び
授業から「一人一人のこどもを主語にする学校教育」を



川越授業スタンダード動画集

川越授業スタンダード動画集を活用し、先生のアイデアで新たな授業づくりを目指しましょう。

0 川越授業スタンダード解説動画 ※新規

「川越授業スタンダード」の目的についての解説動画です。

1 川越授業スタンダード実践動画

「実践動画」では、川越市の先生方のたくさんの実践・授業づくりのアイデアを見ることができます。視聴することで、学びの本質を理解し、具体的な授業をイメージしましょう。

2 川越授業スタンダードを活用した授業づくり動画 ※新規

川越授業スタンダードを活用した授業づくりの流れについての解説動画です。単元の具体的な指導計画を立てる際や、研究授業に向けての授業計画を立てる際に活用し、単元全体を見通した授業づくりを意識しましょう。

3 学校指導訪問に向けた授業づくり動画 ※新規

学校指導訪問に向けた授業づくりについての解説動画です。授業計画や学習指導案を作成する参考にし、学校指導訪問がより充実したものにしましょう。



「理解・共有/定着/深化のスパイラル」

学びは
一人一人のこどもの中に成立します
自分から始まり学び合いを通して自分に帰ります

授業は
一人一人を成長させる営みです
知識・技能を身に付け資質・能力を育成し
一人一人の学びを深化させます

「理解・共有/定着/深化」という授業改善の段階は、学校や先生によって自ずと違いが生まれます。それぞれの状況を把握し、段階を意識して取り組み、学校全体の「理解・共有」「定着」の段階を進めることで、川越市全体として「深化」の段階を目指していきます。

「学びの本質」を具現した「川越授業スタンダード」を柱とした川越市小・中学生学力向上プランは、次期学習指導要領を見据え、来年度に更新します。

